

スマホを上手く使えるようになって

日本女子大学附属高等学校社会科学研究クラブ
田辺真由、根本愛子、別所知奈、山本結海、山本さくら、大窪桜和、
小林真奈、矢ヶ崎光瑠

背景

- ①新型コロナ拡大以降毎日実施し、スマホを使って行う健康調査は、次第に慣れが生じてしまい、提出率の低下が問題視されていた
- ②校則でスマートフォンの持ち込み・使用が認められている一方、スマホとの付き合い方が課題となっていた

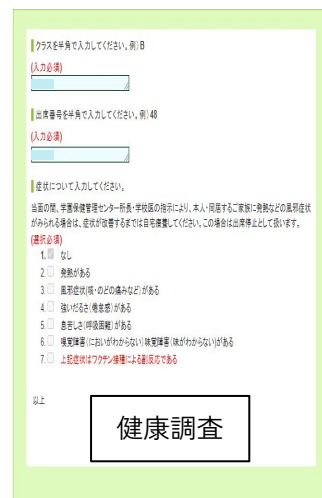
①健康調査に関する仕掛け

仕掛けの目的

- ・新型コロナ拡大後毎日行っている健康調査の提出率を上げるため

仕掛けの内容

- ・2つのクラスの消毒液に一定時間ポスターを設置



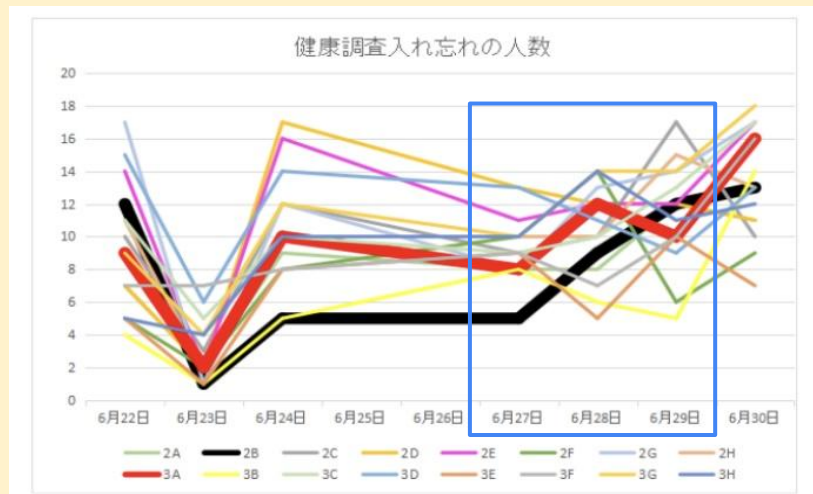
②スマホと上手く付き合う仕掛けを考える

仕掛けの目的

- ・スマホの適切な使い方を身につけるため
- ### 仕掛けの内容
- ・部員同士で話し合った後、実際に仕掛けを考える校内企画を開催

①仕掛けの結果

仕掛けの期間が3日間と短かったこともありあまり効果は見られなかった



	B	C	D	E	F	G	H	I	J
		6月22日	6月23日	6月24日	6月27日	6月28日	6/29	6/30	7/1
2A		7	2	9	8	8	12	11	7
2B		12	1	5	5	9	12	13	14
2C		10	3	12	9	10	17	10	14
2D		7	2	17	13	12	12	11	15
2E		14	2	16	11	12	12	17	14
2F		5	2	8	10	14	6	9	10
2G		17	1	12	8	13	14	17	16
2H		11	2	10	10	10	15	13	16
		6月22日	6月23日	6月24日	6月27日	6月28日	6/29	6/30	7/1
3A		9	2	10	8	12	10	16	13
3B		4	1	5	8	6	5	14	7
3C		11	5	10	9	10	13	17	12
3D		15	6	14	13	11	9	13	13
3E		5	1	8	9	5	10	7	6
3F		7	7	8	9	7	10	16	11
3G		9	4	12	10	14	14	18	17
3H		5	4	10	10	14	11	12	13

*提出率を比較すると、仕掛けを置いた2B・3Hは下降しなかったことが読み取れる

今後求められること

- ①仕掛けの効果を知るためには、期間をさらに伸ばすことが必要
- ②実際に仕掛けを試してみることが必要

②結果

スマホの通知の多さとアプリに焦点を起き、仕掛学の「ついやってしまいたくなる」という特徴を活かして、電源を切りたくなるような仕掛けや使用時間の可視化などを改善策として考えた

スマホを開かないとキャラクターが育つ

使用時間が、色などで分かりやすく示される

箱の中に入れて次の日まで開かない

姿勢の良い画像をスマホの画面に取り入れる

